

令和元年度第4回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和元年8月22日（木） 午前10時～午前11時30分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階第3学習室

3 出席者

(1) 委員 6名

影山一男委員（部会長）、八木浩委員、高橋誠委員、吉田幸子委員、小原幸子委員、清水正明委員

(2) 説明者（施策主管課） 1名

商工労政課：古川昌課長

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：吉田真彦主査

財政課：菅原由紀子主査

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「職業人材の育成」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

高橋誠委員：「3 成果指標の達成状況」はA評価だが、「4 施策を構成する事務事業一覧」における各事業の評価にはA評価が1つもなく、各事務事業を実施した成果によって、施策目標が達成されているというつながりが見えない。

古川昌課長：様々な事務事業を展開しており、成果指標の立て方が難しい。施策における目標値が達成されても、事務事業の評価が低いのは問題として認識している。若者、高齢者などを網羅できる成果指標が必要であると感じている。

小原幸子委員：「5 施策を構成する事務事業の検証」に記載の移住支援事業について、Uターンしてくる人もそれなりにいる、ということであったが、花巻市に魅力を感じて戻ってくるのか、東京がいやになって戻ってくるのか。新卒でやめてしまう人は残業が多いとか、土日が休みでないといった点がいやになってやめてしまうと聞いている。

古川昌課長：国の方では東京一極集中を是正する対策として、移住支援金制度を9月から開始するとのことであり、そうした制度も活用する。

吉田幸子委員：人手不足の状況の中で、スーパーマーケットが新たに進出してくると聞い

ている。このように企業が進出してきた際、人手を確保することはできるのか。

古川昌課長：北上市では人材確保のために、市内に就労・定住する方向けの住宅を建てるための補助を始める。今までのやり方では人集めは難しく、県も東京事務所に人集めのスタッフを配置するなど、サポートを行っている。

花巻市では、スーパーマーケットの他にもドラッグストアがオープンするような動きがある。そのため、スーパーやドラッグストアでも競合する状況が生まれることになる。

清水正明委員：施策名が「職業人材の育成」であるが、就労支援に重点が置かれているように感じる。人材育成はどういうことかを整理して、それに適合した事務事業を実施し、受け皿としての誘致が必要であるという結論という流れになっているが、本当にそうなのか。人材育成でやることと、企業の誘致までの一貫性が見えてこない。事務事業がC評価ということは、何かしらの改善が必要であり、そのために何をするのが記載されていないのはもったいない。

古川昌課長：人材育成はすでに就業している人に特化した事業を実施しているが、就労支援との切り分けが難しい。企業の誘致について記載しているのは、地域に魅力的な働く場所がないと振り向いてもらえない、という課題の一部を解決する可能性があるという意味である。

清水正明委員：支援する対象が多岐にわたるので、対象ごとの状況を確認し、何を支援すべきかを整理すると、施策の目標達成のために必要なことが見えてくると思う。

影山一男委員：就労支援で、「ジョブカフェはなまき」登録者の就職決定率が非常に良い、ということだが、有効求人倍率が上昇傾向にある中、非正規雇用の状況はどのようになっているか。高校生はすべて正規雇用だと思うが、日本全体でもここ30年間増えているのは非正規雇用である。

古川昌課長：全般的な傾向として、非正規雇用は増えている。

影山一男委員：若者の最近の傾向の1つに、就職して3年以内に辞めてしまうというものがあり、定職に就かない人も多いようである。現在の若者は1つの職場に居続けるという意識は薄くなっており、離職率を低くする必要も今後は出てくるのではないかと思う。有効求人倍率が比較的高い時に、若年層に有利な就職環境を作るとか、業種によって人余りのところと人不足のところがあると思う。市内ではどの業種で人手不足が起こっているのか、を把握する必要がある。介護業界では施設を作っても働く人がいないという状況もあり、市では介護の仕事に就くと奨学金の返済を助成する制度もある。花巻市で働き続けられるような環境づくりとして、若い人が定着できるような就労支援を手厚く行っていく必要がある、有効求人倍率が高い今は、そうしたことに取り組むのにちょうどいいタイミングである。

清水正明委員：研修の内容や求職の方法を工夫し、職場の魅力を向上させるというアプローチも考えられる。また、若者が流動化している実態を踏まえ、1つの職場にとどまらないという考え方をに入れて考え、色々な仕事ができるという環境整備をするということも、人材育成の取り組みとして考えられる。

古川昌課長：高校の就職担当からは、毎年採用してもらおう事業所からの求人を大事にした

いという話も聞いている。早期離職の対策として教育委員会でもキャリア教育をやっているが、個人レベルでは職業観にも差があって難しいところもある。

吉田幸子委員：早期離職者は自分の希望先でなかったからやめるのか、入社したらイメージが違ったからやめるのか、どちらなのか。

古川昌課長：両方とも早期退職の要因である。

八木浩委員：個人がどのように感じるかという問題でもある。

高橋誠委員：残業が多いから辞めるということもあるが、残業がなくなって手取りが減ってしまったことを理由に辞める人もいるようだ。

吉田幸子委員：南部杜氏は専門に研修を受けている人が就いているのか？

古川昌課長：杜氏は試験に合格した人しかなれず、時期になると様々な蔵元に出稼ぎに行くが、年々人数は減少している。

八木浩委員：杜氏さんは普段は別のことをしていて、季節で稼ぎに行くのか。

古川昌課長：普段は農業などをしていて、冬期間に出稼ぎに行く。

八木浩委員：現在、ホットスプリングス市から来ている人が酒造りを学んでおり、ゆくゆくはホットスプリングス市で酒蔵を開きたいと言っていると聞いた。

高橋誠委員：商工会議所青年部の求人活動に関するヒアリングでは、花巻市内の中小企業に勤めてもらえるのが一番良いのだが、インターンは来ても応募がない。県に聞いたところ親が子供の就職について、大企業や公的機関への就職を誘導しているという。就職相談会だけではなく、子供本人や保護者にも市内企業のことを知ってもらうことが必要である。

古川昌課長：最近市内の企業がコマーシャルを出している。親の心理としてコマーシャルをやっているところは信頼できるという気持ちもある。県でも YouTube で動画を公開するなどしている。そういった意味で地元の企業情報について周知することは必要である。

吉田幸子委員：企業側からの情報発信によって、知ってもらうことが重要。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

● 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

清水正明委員：前年度評価と反映状況がつながっており、記載も具体的なので機能しているということで良い。

● 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

影山一男委員：①「なし」としている理由は何かを記載する。

吉田幸子委員：直結度が高い事業の成果が C 評価なのは問題と思う。

影山一男委員：新たな事業として、B 評価になった事業をさらに強化するという記載になっている。悪いことではないが、本来は C 評価の事業をどう改善するかを記載する項目である。

高橋誠委員：「4 施策を構成する事務事業一覧」に記載のあるシルバー人材センター事

業がC評価なのはなぜか。会員数や受託件数も減少しているが、そこまでではないと思う。就職ガイダンスでも参加者数は減少している。

吉田真彦主査：「4 施策を構成する事務事業一覧」の成果は、事務事業評価シートにおける「成果指標の達成度」を転記することとなっている。事務事業評価で「目標値より低い」と評価された事業は施策評価シートでもC評価という記載になる。

吉田幸子委員：シルバー人材センター事業は数字自体も昨年度より減少している。会員数も減少し、受託件数も減少傾向にある中では、評価としては低くなってしまっているのではないか。就職ガイダンスも目標値を下げているが、実績値も前年度より減少しており、C評価になってしまうような目標値になっている。

影山一男委員：成果指標を立てた時の目標値は就職状況が厳しい時に見積もったものと考えられるが、現在は就職の状況が良い。社会情勢に合わせて目標値を調整するという考え方も必要。

吉田幸子委員：何を基準にして目標値を立てたかわからないため、評価内容が妥当なものであるかどうかを施策評価シートや事務事業評価シートだけでは判断できない。

●「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

吉田幸子委員：「従業員を対象としたスキルアップセミナー等の参加者数」が成果指標に設定されているが、ばらつきがあるのではないかと思う。

影山一男委員：問題は参加したことによってスキルアップしたかどうかであり、それがどう反映されるかだと思う。本当に企業にとって受講したことが良かったか。

高橋誠委員：事業所としても研修に社員を出している、ということが分かるという意味ではこうした数値を見ることは良いと思う。

●「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

影山一男委員：「現状と課題」で今日のミスマッチや非正規雇用の増加と記載しているが、この項目では抜け落ちて、人手不足だけの記載になっている。

その上で今後の方向性が移住者支援や企業誘致になっており、悪くはないが、足りないところがあると思う。質疑応答であった、市内の企業情報発信やキャリア教育など、具体的な対策が今後の方向性に記載されると良い。

吉田幸子委員：自分が勤めたいと思える企業が花巻市内にあるかどうか。

●「シート記載内容全般について」

清水正明委員：企業の誘致という結論になっているが、関連部署と連携して進める必要があると思う。単独部署で解決するのが難しい課題に取り組む施策であるが、関係課がない施策なので、関連する部署や事業は幅広にとらえて、記載されるべきと考える。

吉田幸子委員：「職業人材の育成」という名前が合わないのではないか。

清水正明委員：長期の計画における施策のため、その時代の情勢によって合わないところも出てくるので、見直しながら進められると良い。

●その他

影山一男委員：第3回行政評価委員会の施策評価検証シートを作成した。意見等がある場合は次回の委員会（8月27日）までにお知らせをいただきたい。